

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	花咲くみらい カプリス西京極（児童発達支援）			
○保護者評価実施期間	2025年2月 10日		～	2025年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	36	(回答者数)	29
○従業者評価実施期間	2025年 2月 10日		～	2025年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4	(回答者数)	4
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 3月 25日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	お互いに意見を出し合える雰囲気があり、サービス内容や改善点についてすぐに話し合える風土が出来上がっている。	児発管は職員の意見を聞くことに注力し、決定的な発言を控えるようにしている。	お互いの支援について意見を言い合えるまでの関係性は出来ていないので、目標を共有して取り組むなどして、さらにお互いの信頼関係を築いていく。 専門性を高めるような研修をそれぞれの職員が受けられるように体制を整える。
2	それぞれの人間性が発揮されている。	お互いの考え方の違い、意見を尊重している。	
3	幅広く専門性のある支援を行えること。		理学療法士、公認心理師、臨床心理士、言語聴覚士、保育士等専門職がそれぞれの専門性を生かしながら共有し、こども一人ひとりに必要な支援を行っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	ペアレントトレーニングなど家族支援プログラムのさらなる充実。	ペアレントトレーニングを行う場合、年長児の保護者、言葉の発達に遅れのある子どもの保護者など対象を絞って行うことが多く、気軽に開催出来にくい。	気軽に行えるような内容の検討や工夫。
2	保育所等との交流や地域の子どもと活動する機会のさらなる充実	イベントやペアレントトレーニング等を通じて機会の確保は出来ているが、さらに充実させるための具体的な方法を模索している。	SNSを更に活用するなど、広く地域にイベント等を周知する工夫が必要。
3			